

2024年度 夏季講座 A  
数学 I・II・A・B・C (ベクトル)  
の  
大学入学共通テスト対策

共立女子高等学校



## 問題別出題分野

- 1 三角関数
- 2 指数関数
- 3 対数関数
- 4 数列
- 5 数列
- 6 数列
- 7 数列
- 8 ベクトル
- 9 ベクトル
- 10 ベクトル
- 11 微分法
- 12 微分法
- 13 微分法
- 14 積分法
- 15 積分法
- 16 場合の数
- 17 場合の数
- 18 確率

1. 座標平面上に点  $A(1, 0)$ ,  $P(\cos 2\theta, \sin 2\theta)$ ,  $Q(2\cos 3\theta, 2\sin 3\theta)$  をとる.

$\theta$  が  $\frac{\pi}{3} \leq \theta < \pi$  の範囲を動くとき,  $AP^2 + PQ^2$  の最大値と最小値を求めよう.

$AP^2$  は  $AP^2 = \boxed{\text{ア}} - \boxed{\text{イ}} \cos 2\theta = \boxed{\text{ウ}} - \boxed{\text{エ}} \cos^2 \theta$  である.

また,  $PQ^2$  は  $PQ^2 = \boxed{\text{オ}} - \boxed{\text{カ}} \cos \theta$  である.

$\frac{\pi}{3} \leq \theta < \pi$  であるから,  $\boxed{\text{キク}} < \cos \theta \leq \frac{\boxed{\text{ケ}}}{\boxed{\text{コ}}}$  である.

したがって,  $AP^2 + PQ^2$  は,  $\theta = \frac{\boxed{\text{サ}}}{\boxed{\text{シ}}} \pi$  で最大値  $\boxed{\text{スセ}}$ ,  $\theta = \frac{\pi}{\boxed{\text{ソ}}}$  で最小値  $\boxed{\text{タ}}$  をとる.



2.  $a, b$  を正の実数とする. 連立方程式(\*)  $\begin{cases} x\sqrt{y^3} = a \\ \sqrt[3]{xy} = b \end{cases}$  を満たす正の実数  $x, y$  について考えよう.

(1) 連立方程式(\*) を満たす正の実数  $x, y$  は  $x = a^{\boxed{\text{ア}}} b^{\boxed{\text{イウ}}}$ ,  $y = a^{\boxed{\text{エ}}} b^{\boxed{\text{キ}}}$  となる. ただし,  $p = \frac{\boxed{\text{オカ}}}{\boxed{\text{キ}}}$

である.

(2)  $b = 2\sqrt[3]{a^4}$  とする.  $a$  が  $a > 0$  の範囲を動くとき, 連立方程式(\*) を満たす正の実数  $x, y$  について,  $x + y$  の最小値を求めよう.

$b = 2\sqrt[3]{a^4}$  であるから, (\*) を満たす正の実数  $x, y$  は,  $a$  を用いて  $x = 2^{\boxed{\text{イウ}}} a^{\boxed{\text{クケ}}}$ ,  $y = 2^{\boxed{\text{エ}}} a^{\boxed{\text{コ}}}$  と表される. よって, 相加平均と相乗平均の関係を利用すると,  $x + y$  は  $a = 2^q$  のとき最小値

$\sqrt{\boxed{\text{サ}}}$  をとることがわかる. ただし  $q = \frac{\boxed{\text{シス}}}{\boxed{\text{セ}}}$  である.



3.  $x, y$  は正の実数とする. 2つの不等式  $\log_3(x\sqrt{y}) \leq 5 \dots \textcircled{1}$  と  $\log_{81} \frac{y}{x^3} \leq 1 \dots \textcircled{2}$  について考える.  $X = \log_3 x, Y = \log_3 y$  とおくと,  $\textcircled{1}$  は  $\boxed{\text{ア}} X + Y \leq \boxed{\text{イウ}} \dots \textcircled{3}$ ,  $\textcircled{2}$  は  $\boxed{\text{エ}} X - Y \geq \boxed{\text{オカ}} \dots \textcircled{4}$  と変形できる.  $X, Y$  が  $\textcircled{3}$  と  $\textcircled{4}$  を満たすとき,  $Y$  のとりうる最大の整数の値は  $\boxed{\text{キ}}$  である. また,  $x, y$  が  $\textcircled{1}, \textcircled{2}$  と  $\log_3 y = \boxed{\text{キ}}$  を同時に満たすとき,  $x$  のとりうる最大の整数の値は  $\boxed{\text{ク}}$  である.





4. 以下において考察する数列の項は、すべて実数であるとする。

- (1)  $\{s_n\}$  を初項  $x$ 、公比  $r$  の等比数列とする。  $a, b$  を実数 (ただし  $a \neq 0$ ) とし、  $\{s_n\}$  の最初の 3 項が  $s_1 s_2 s_3 = a^3 \dots$  ①,  $s_1 + s_2 + s_3 = b \dots$  ② を満たすとする。このとき、  $xr = \boxed{\text{ア}} \dots$  ③ である。さらに、②, ③ を用いて  $r, a, b$  の満たす関係式を求めると、

$$\boxed{\text{イ}} r^2 + (\boxed{\text{ウ}} - \boxed{\text{エ}}) r + \boxed{\text{オ}} = 0 \dots \text{④} \text{ を得る。④ を満たす実数 } r \text{ が存在するので、}$$

$$\boxed{\text{カ}} a^2 + \boxed{\text{キ}} ab - b^2 \leq 0 \dots \text{⑤} \text{ である。逆に、} a, b \text{ が⑤ を満たすとき、③, ④ を用いて } r, x \text{ の値を求めることができる。}$$

- (2)  $a = 64, b = 336$  のとき、条件 ①, ② を満たし、公比が 1 より大きい等比数列  $\{s_n\}$  を考える。③, ④ を用いて  $\{s_n\}$  の公比  $r$  と初項  $x$  を求めると、  $r = \boxed{\text{ク}}$ ,  $x = \boxed{\text{ケコ}}$  である。



5. 真分数を分母の小さい順に、分母が同じ場合には分子の小さい順に並べてできる数列

$$\frac{1}{2}, \frac{1}{3}, \frac{2}{3}, \frac{1}{4}, \frac{2}{4}, \frac{3}{4}, \frac{1}{5}, \dots$$

を  $\{a_n\}$  とする。真分数とは、分子と分母がともに自然数で、分子が分母より小さい分数のことであり、上の数列では、約分できる形の分数も含めて並べている。以下の問題に分数形で解答する場合は、それ以上約分できない形で答えよ。

(1)  $a_{15} = \frac{\boxed{\text{ア}}}{\boxed{\text{イ}}}$  である。また、分母に初めて8が現れる項は、 $a_{\boxed{\text{ウエ}}}$  である。

(2)  $k$  を2以上の自然数とする。数列  $\{a_n\}$  において、 $\frac{1}{k}$  が初めて現れる項を第  $M_k$  項とし、 $\frac{k-1}{k}$  が初めて現れる項を第  $N_k$  項とすると  $M_k = \frac{\boxed{\text{オ}}}{\boxed{\text{カ}}}k^2 - \frac{\boxed{\text{キ}}}{\boxed{\text{ク}}}k + \boxed{\text{ケ}}$ ,  $N_k = \frac{\boxed{\text{コ}}}{\boxed{\text{サ}}}k^2 - \frac{\boxed{\text{シ}}}{\boxed{\text{ス}}}k$  である。

(3)  $k$  を2以上の自然数とする。数列  $\{a_n\}$  の第  $M_k$  項から第  $N_k$  項までの和は  $\frac{\boxed{\text{セ}}}{\boxed{\text{ソ}}}k - \frac{\boxed{\text{タ}}}{\boxed{\text{チ}}}$  であ

り、 $\sum_{n=1}^{104} a_n = \frac{\boxed{\text{ツテトナ}}}{\boxed{\text{ニヌ}}}$  である。



6.  $a_1=0, a_2=2, a_{n+2}=8(n+2)a_{n+1}-7(n^2+3n+2)a_n$  ( $n=1, 2, 3, \dots$ ) を満たす数列  $\{a_n\}$  の一般項

を求める.  $b_n = \frac{a_n}{n!}$  とおくと,

$$b_1 = \boxed{\text{ア}}, b_2 = \boxed{\text{イ}}, b_{n+2} = \boxed{\text{ウ}} b_{n+1} - \boxed{\text{エ}} b_n \quad (n=1, 2, 3, \dots)$$

となる. この数列  $\{b_n\}$  の一般項を求める方法を次のように考えた.

考え方 1

階差数列  $\{b_{n+1} - b_n\}$  が公比  $\boxed{\text{オ}}$  の等比数列になることを用いる.

考え方 2

数列  $\{b_{n+1} - \boxed{\text{カ}} b_n\}$  が, 常に一定の値  $\boxed{\text{キ}}$  をとることを用いる.

いずれの考え方を用いても, 数列  $\{b_n\}$  の一般項を求めることができる.

数列  $\{a_n\}$  の一般項は,  $a_n = \frac{n!}{\boxed{\text{ク}}} (\boxed{\text{ケ}}^{n-\boxed{\text{コ}}} - \boxed{\text{サ}})$  である.



7. 次の条件を満たす数列  $\{a_n\}$  の一般項を求めよう.

$$a_1 = -40, a_{n+1} = |4n - a_n| + 2a_n \quad (n = 1, 2, 3, \dots) \dots \textcircled{1}$$

(1)  $a_2 = -\boxed{\text{アイ}}, a_3 = -\boxed{\text{ウエ}}, a_4 = -\boxed{\text{オカ}}, a_5 = 0, a_6 = 20$  である.

$n \leq 6$  のとき,  $a_n \leq 4n$  が成り立っているので,  $a_{n+1} = a_n + 4n$  である.

したがって,  $n \leq 7$  のとき,  $a_n = \boxed{\text{キ}}n^2 - \boxed{\text{ク}}n - \boxed{\text{ケコ}}$  となる.

(2) 以下,  $n \geq 7$  のとき, 数列  $\{a_n\}$  の一般項を求めよう.

まず, このとき  $a_n > 4n \dots \textcircled{2}$  であることを数学的帰納法により確かめる.

[I]  $n = 7$  のとき,  $a_7 = \boxed{\text{サシ}}$  であるので,  $\textcircled{2}$  が成り立つ.

[II]  $k \geq 7$  として,  $n = k$  のとき  $\textcircled{2}$  が成り立つと仮定する.

$\textcircled{1}$  により  $a_{k+1} = \boxed{\text{ス}}a_k - \boxed{\text{セ}}k$  であるので,  $a_{k+1} > 8k$  となる.

また,  $8k > 4(k+1)$  であるので,  $n = k+1$  のときにも  $\textcircled{2}$  が成り立つ.

[I], [II] により,  $n \geq 7$  のとき,  $\textcircled{2}$  が成り立つ.

したがって,  $n \geq 7$  のとき,  $a_{n+1} = \boxed{\text{ス}}a_n - \boxed{\text{セ}}n \dots \textcircled{3}$  である.

$b_n = a_{n+1} - a_n$  とおくと,  $b_n$  と  $b_{n+1}$  は関係式  $b_{n+1} = \boxed{\text{ソ}}b_n - \boxed{\text{タ}}$  を満たし, この関係式は

$b_{n+1} - \boxed{\text{チ}} = \boxed{\text{ツ}}(b_n - \boxed{\text{チ}})$  と変形できる.

$b_7 = \boxed{\text{テト}}$  であるので,  $n \geq 7$  のとき,  $b_n = \boxed{\text{ナニ}} \cdot \boxed{\text{ツ}}^{n-7} + \boxed{\text{チ}}$  である.

$\textcircled{3}$  から,  $b_n = \boxed{\text{ヌ}}a_n - \boxed{\text{セ}}n$  なので,  $n \geq 7$  のとき,

$$a_n = \frac{1}{\boxed{\text{ヌ}}}(b_n + \boxed{\text{セ}}n) = \boxed{\text{ネノ}} \cdot \boxed{\text{ツ}}^{n-7} + \boxed{\text{ハ}}n + \boxed{\text{ヒ}}$$





8. 平面上の3つのベクトル $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$ ,  $\vec{c}$ は, 次の条件を満たす.

$$|\vec{a}| = |\vec{b}| = |\vec{c}| = 1, \vec{a} \text{ と } \vec{b} \text{ のなす角は } 150^\circ, \vec{c} \cdot \vec{a} = 0, \vec{c} \cdot \vec{b} > 0$$

このとき,  $\vec{a}$  と  $\vec{c}$  のなす角は °,  $\vec{b}$  と  $\vec{c}$  のなす角は ° である.

よって,  $\vec{c}$  を  $\vec{a}$  と  $\vec{b}$  を用いて表すと,  $\vec{c} = \sqrt{\text{オ}}$   $\vec{a} + \text{カ}$   $\vec{b}$  である.



9. 平面上の  $\triangle OAB$  において,  $|\vec{OA}|=2$ ,  $|\vec{OB}|=3$ ,  $\angle AOB=60^\circ$  とし, 点 P は  $\vec{PA} \cdot \vec{PB} = \frac{5}{4}$  を満たし

ながら動く.  $\vec{OA} \cdot \vec{OB} = \boxed{\text{ア}}$  に注意すると,  $|\vec{OP}|^2 - (\vec{OA} + \vec{OB}) \cdot \vec{OP} + \frac{\boxed{\text{イ}}}{\boxed{\text{ウ}}} = 0$  となる. 点 M

を  $\vec{OM} = \frac{\vec{OA} + \vec{OB}}{\boxed{\text{エ}}}$  となるように定めると, 点 P は M を中心とする半径  $\sqrt{\boxed{\text{オ}}}$  の円周上を動く.



10. O を原点とする座標空間に 2 点  $A(-1, 2, 0)$ ,  $B(2, p, q)$  がある. ただし,  $q > 0$  とする. 線分 AB の中点 C から直線 OA に引いた垂線と直線 OA の交点 D は, 線分 OA を 9:1 に内分するものとする. また, 点 C から直線 OB に引いた垂線と直線 OB の交点 E は, 線分 OB を 3:2 に内分するものとする.

(1) 点 B の座標を求めよう.  $|\overrightarrow{OA}|^2 = \boxed{\text{ア}}$  である. また,  $\overrightarrow{OD} = \frac{\boxed{\text{イ}}}{\boxed{\text{ウエ}}}\overrightarrow{OA}$  であることにより,

$\overrightarrow{CD} = \frac{\boxed{\text{オ}}}{\boxed{\text{カ}}}\overrightarrow{OA} - \frac{\boxed{\text{キ}}}{\boxed{\text{ク}}}\overrightarrow{OB}$  と表される.  $\overrightarrow{OA} \perp \overrightarrow{CD}$  から  $\overrightarrow{OA} \cdot \overrightarrow{OB} = \boxed{\text{ケ}}$  ... ① である. 同様

に,  $\overrightarrow{CE}$  を  $\overrightarrow{OA}$ ,  $\overrightarrow{OB}$  を用いて表すと,  $\overrightarrow{OB} \perp \overrightarrow{CE}$  から  $|\overrightarrow{OB}|^2 = 20$  ... ② を得る. ① と ② および  $q > 0$  から, B の座標は  $(2, \boxed{\text{コ}}, \sqrt{\boxed{\text{サ}}})$  である.

(2) 3 点 O, A, B の定める平面を  $\alpha$  とし, 点  $(4, 4, -\sqrt{7})$  を G とする. また,  $\alpha$  上に点 H を  $\overrightarrow{GH} \perp \overrightarrow{OA}$  と  $\overrightarrow{GH} \perp \overrightarrow{OB}$  が成り立つようにとる.  $\overrightarrow{OH}$  を  $\overrightarrow{OA}$ ,  $\overrightarrow{OB}$  を用いて表そう. H が  $\alpha$  上にあることから, 実数  $s, t$  を用いて  $\overrightarrow{OH} = s\overrightarrow{OA} + t\overrightarrow{OB}$  と表される.

よって,  $\overrightarrow{GH} = \boxed{\text{シ}}\overrightarrow{OG} + s\overrightarrow{OA} + t\overrightarrow{OB}$  である. これと,  $\overrightarrow{GH} \perp \overrightarrow{OA}$  および  $\overrightarrow{GH} \perp \overrightarrow{OB}$  が成り立つこ

とから,  $s = \frac{\boxed{\text{ス}}}{\boxed{\text{セ}}}$ ,  $t = \frac{\boxed{\text{ソ}}}{\boxed{\text{タチ}}}$  が得られる. ゆえに,  $\overrightarrow{OH} = \frac{\boxed{\text{ス}}}{\boxed{\text{セ}}}\overrightarrow{OA} + \frac{\boxed{\text{ソ}}}{\boxed{\text{タチ}}}\overrightarrow{OB}$  となる.



11.  $a$  を定数とし、関数  $f(x) = x^3 + ax^2 + (a^2 + 4a - 6)x + 27$  を考える.

$f(x)$  が極値をもつとき、 $a$  のとりうる値の範囲は、

$$\boxed{\text{アイ}} - \boxed{\text{ウ}} \sqrt{\boxed{\text{エ}}} < a < \boxed{\text{アイ}} + \boxed{\text{ウ}} \sqrt{\boxed{\text{エ}}}$$

である.

$f(x)$  が  $x = \alpha$  で極大値、 $x = \beta$  で極小値をとるとする. このとき、 $\beta - \alpha$  を  $a$  を用いて表すと、

$$\beta - \alpha = \frac{\boxed{\text{オ}}}{\boxed{\text{カ}}} \sqrt{\boxed{\text{キク}} a^2 - \boxed{\text{ケコ}} a + 18}$$

となる.

したがって、 $\beta - \alpha$  は  $a = \boxed{\text{サシ}}$  のとき 最大値  $\boxed{\text{ス}}$  をとる.

$a = \boxed{\text{サシ}}$  のとき、 $y = f(x)$  のグラフは  $x = \boxed{\text{セ}}$  の点で  $x$  軸と接し、また、関数  $f(x)$  の極大値は

$\boxed{\text{ソタ}}$  となる.





12. 関数  $y = 4 \cdot 8^x - 24 \cdot 4^x + 57 \cdot 2^x - 73 + 57 \cdot 2^{-x} - 24 \cdot 4^{-x} + 4 \cdot 8^{-x}$  の最小値を求めよう.

$t = 2^x + 2^{-x}$  とおくと,  $t$  の最小値は  $\boxed{\text{ア}}$  であり,  $t$  は  $\boxed{\text{ア}}$  以上のすべての実数を取りうる.

$y$  を  $t$  で表すと  $y = \boxed{\text{イ}} t^3 - \boxed{\text{ウエ}} t^2 + \boxed{\text{オカ}} t - \boxed{\text{キク}}$  となる.

$t \geq \boxed{\text{ア}}$  であるから,  $y$  は  $t = \frac{\boxed{\text{ケ}}}{\boxed{\text{コ}}}$  のとき最小値  $\boxed{\text{サ}}$  をとる.

$t = \frac{\boxed{\text{ケ}}}{\boxed{\text{コ}}}$  となるのは  $x = \boxed{\text{シ}}$  または  $x = -\boxed{\text{シ}}$  のときである.



13.  $k$  を実数とし、座標平面上に点  $P(1, 0)$  をとる。曲線  $y = -x^3 + 9x^2 + kx$  を  $C$  とする。

点  $P$  を通る曲線  $C$  の接線の本数について調べよう。

点  $Q(t, -t^3 + 9t^2 + kt)$  における曲線  $C$  の接線が点  $P$  を通るとすると、

$-\boxed{\text{ア}}t^3 + \boxed{\text{イウ}}t^2 - \boxed{\text{エオ}}t = k$  が成り立つ。

$p(t) = -\boxed{\text{ア}}t^3 + \boxed{\text{イウ}}t^2 - \boxed{\text{エオ}}t$  とおくと、関数  $p(t)$  は  $t = \boxed{\text{カ}}$  で極小値  $\boxed{\text{キク}}$  をとり、

$t = \boxed{\text{ケ}}$  で極大値  $\boxed{\text{コ}}$  をとる。したがって、点  $P$  を通る曲線  $C$  の接線の本数がちょうど 2 本となるのは、 $k$  の値が  $\boxed{\text{サ}}$  または  $\boxed{\text{シス}}$  のときである。

また、点  $P$  を通る曲線  $C$  の接線の本数は  $k = 5$  のとき  $\boxed{\text{セ}}$  本、 $k = -2$  のとき  $\boxed{\text{ソ}}$  本、 $k = -12$  のとき  $\boxed{\text{タ}}$  本となる。



14.  $f(a) = \int_0^1 |3x(x-a)|dx$  について考える.

(1)  $0 \leq a \leq 1$  のとき,  $f(a) = a^3 - \frac{\text{ア}}{\text{イ}}a + \text{ウ}$

$1 < a \leq 2$  のとき,  $f(a) = \frac{\text{エ}}{\text{オ}}a - \text{カ}$

である.

(2)  $0 \leq a \leq 2$  の範囲で  $a$  を変化させると,  $f(a)$  は,

$a = \text{キ}$  で最大値  $\text{ク}$

をとり,

$a = \frac{\sqrt{\text{ケ}}}{\text{コ}}$  で最小値  $\frac{\text{サ} - \sqrt{\text{シ}}}{\text{ス}}$

をとる.



15.  $a > 0$  とし,  $f(x) = x^2 - (4a - 2)x + 4a^2 + 1$  とおく. 座標平面上で, 放物線  $y = x^2 + 2x + 1$  を  $C$ , 放物線  $y = f(x)$  を  $D$  とする.  $\ell$  を  $C$  と  $D$  の両方に接する直線とすると,  $\ell$  の方程式は  $y = \boxed{\text{ア}}x + \boxed{\text{イ}}$  である. 2つの放物線  $C, D$  の交点の  $x$  座標は  $\boxed{\text{ウ}}$  であるから,  $C$  と直線  $\ell$ , および直線  $x = \boxed{\text{ウ}}$  で囲まれた図形の面積を  $S$  とすると,  $S = \frac{a^{\boxed{\text{エ}}}}{\boxed{\text{オ}}}$  である.  $\frac{1}{2} \leq a \leq 1$  とするとき, 2つの放物線  $C, D$  と直線  $\ell$  で囲まれた図形の中で  $0 \leq x \leq 1$  を満たす部分の面積  $T$  は  $T = -\boxed{\text{カ}}a^3 + \boxed{\text{キ}}a^2 - \boxed{\text{ク}}a + \frac{\boxed{\text{ケ}}}{\boxed{\text{コ}}}$  である.  $a$  が  $\frac{1}{2} \leq a \leq 1$  の範囲を動くとき,  $2T - 3S$  は  $a = \frac{\boxed{\text{サ}}}{\boxed{\text{シ}}}$  で最大値  $\frac{\boxed{\text{ス}}}{\boxed{\text{セソ}}}$  をとる.





16. 同じ大きさの5枚の正方形の板を1列に並べて、図のような掲示板を作り、壁に固定する。



赤色、緑色、青色のペンキを用いて、隣り合う正方形どうしが異なる色となるように、この掲示板を塗り分ける。ただし、塗り分ける際には、3色のペンキをすべて使わなければならないわけではなく、2色のペンキだけで塗り分けることがあってもよいものとする。

- (1) このような塗り方は、全部で  通りある。
- (2) 塗り方が左右対称となるのは、  通りある。
- (3) 青色と緑色の2色だけで塗り分けるのは、  通りある。
- (4) 赤色に塗られる正方形が3枚であるのは、  通りある。
- (5) 赤色に塗られる正方形が1枚である場合について考える。
  - ・ どちらかの端の1枚が赤色に塗られるのは、  通りある。
  - ・ 端以外の1枚が赤色に塗られるのは、  通りある。よって、赤色に塗られる正方形が1枚であるのは、  通りある。
- (6) 赤色に塗られる正方形が2枚であるのは、  通りある。



17. (1) 1から4までの数字を、重複を許して並べてできる4桁の自然数は、全部で  個ある。このうち、1331のように、異なる2つの数字を2回ずつ使ってできるものの個数は何個あるか、次のように考察した。

1から4までの数字から異なる2つを選ぶ。この選び方は  通りある。そして選んだ数字のうち小さい方を、一・十・百・千の位のうち、どの2か所に置くか決める。置く2か所の決め方は  通りある。  
小さい方の数字を置く場所を決めると、大きい方の数字を置く場所は残りの2か所に決まる。  
よって、求める個数は  個である。

- (2) 1000から9999までの4桁の自然数のうち、1000や、1212のように、ちょうど2種類の数字を使ってできるものは全部で  個ある。



18. 4つの箱があり、そのうちの2つは当たりくじの入った当たりの箱であり、残りの2つは当たりくじの入っていないはずれの箱である。

(1) 太郎さんが先に箱を1つ選び、次に花子さんが残りの箱から1つを選ぶ。

このとき、花子さんが当たりの箱を選ぶ確率は  $\frac{\boxed{\text{ア}}}{\boxed{\text{イ}}}$  である。

(2) 太郎さんが先に箱を1つ選んでまだ開けないうちに、花子さんが別の箱を1つ開けたところ、はずれであった。太郎さんが「既に選んだ箱から変えない」、または「選んでいない2つの箱から選び直す」のどちらかを選択するとき、太郎さんが当たりくじの入った箱を開ける確率は  $\boxed{\text{ウ}}$ 。

$\boxed{\text{ウ}}$  の解答群

- ① 「既に選んだ箱から変えない」の方が高い
- ② 「選んでいない2つの箱から選び直す」の方が高い
- ③ どちらを選択しても変わらない



解答

- 1 (ア) 2 (イ) 2 (ウ) 4 (エ) 4 (オ) 5 (カ) 4 (キク)  $-1$   $\frac{(\text{ケ})}{(\text{コ})} \frac{1}{2}$   
 $\frac{(\text{サ})}{(\text{シ})} \frac{2}{3}$  (スセ) 10 (ソ) 3 (タ) 6
- 2 (ア) 2 (イウ)  $-3$  (エ) 2  $\frac{(\text{オカ})}{(\text{キ})} \frac{-2}{3}$  (クケ)  $-2$  (コ) 2  $\sqrt{(\text{サ})} \sqrt{2}$   
 $\frac{(\text{シス})}{(\text{セ})} \frac{-5}{4}$
- 3 (ア) 2 (イウ) 10 (エ) 3 (オカ)  $-4$  (キ) 7 (ク) 5
- 4 (ア)  $a$  (イ)  $a$  (ウ)  $a$  (エ)  $b$  (オ)  $a$  (カ) 3 (キ) 2 (ク) 4  
 (ケコ) 16
- 5  $\frac{(\text{ア})}{(\text{イ})} \frac{5}{6}$  (ウエ) 22  $\frac{(\text{オ})}{(\text{カ})} \frac{1}{2}$   $\frac{(\text{キ})}{(\text{ク})} \frac{3}{2}$  (ケ) 2  $\frac{(\text{コ})}{(\text{サ})} \frac{1}{2}$   $\frac{(\text{シ})}{(\text{ス})} \frac{1}{2}$   
 $\frac{(\text{セ})}{(\text{ソ})} \frac{1}{2}$   $\frac{(\text{タ})}{(\text{チ})} \frac{1}{2}$   $\frac{(\text{ツテトナ})}{(\text{ニヌ})} \frac{1547}{30}$
- 6 (ア) 0 (イ) 1 (ウ) 8 (エ) 7 (オ) 7 (カ) 7 (キ) 1 (ク) 6  
 (ケ) 7 (コ) 1 (サ) 1
- 7 (アイ) 36 (ウエ) 28 (オカ) 16 (キ) 2 (ク) 2 (ケコ) 40 (サシ) 44  
 (ス) 3 (セ) 4 (ソ) 3 (タ) 4 (チ) 2 (ツ) 3 (テト) 60 (ナニ) 58  
 (ヌ) 2 (ネノ) 29 (ハ) 2 (ヒ) 1
- 8 (アイ) 90 (ウエ) 60  $\sqrt{(\text{オ})} \sqrt{3}$  (カ) 2
- 9 (ア) 3  $\frac{(\text{イ})}{(\text{ウ})} \frac{7}{4}$  (エ) 2  $\sqrt{(\text{オ})} \sqrt{3}$
- 10 (ア) 5  $\frac{(\text{イ})}{(\text{ウエ})} \frac{9}{10}$   $\frac{(\text{オ})}{(\text{カ})} \frac{2}{5}$   $\frac{(\text{キ})}{(\text{ク})} \frac{1}{2}$  (ケ) 4 (コ) 3  $\sqrt{(\text{サ})} \sqrt{7}$   
 (シ)  $-$   $\frac{(\text{ス})}{(\text{セ})} \frac{1}{3}$   $\frac{(\text{ソ})}{(\text{タチ})} \frac{7}{12}$
- 11 (アイ) $-(\text{ウ})\sqrt{(\text{エ})}$   $-3-3\sqrt{2}$   $\frac{(\text{オ})}{(\text{カ})} \frac{2}{3}$  (キク)  $-2$  (ケコ) 12 (サシ)  $-3$



(ス) 4 (セ) 3 (ソタ) 32

12 (ア) 2 (イ) 4 (ウエ) 24 (オカ) 45 (キク) 25  $\frac{(ケ)}{(コ)} \frac{5}{2}$  (サ) 0  
(シ) 1

13 (ア) 2 (イウ) 12 (エオ) 18 (カ) 1 (キク) -8 (ケ) 3  
(コ) 0 (サ) 0 (シス) -8 (セ) 1 (ソ) 3 (タ) 1

14  $\frac{(ア)}{(イ)} \frac{3}{2}$  (ウ) 1  $\frac{(エ)}{(オ)} \frac{3}{2}$  (カ) 1 (キ) 2 (ク) 2  $\frac{\sqrt{(ケ)}}{(コ)} \frac{\sqrt{2}}{2}$   
 $\frac{(サ) - \sqrt{(シ)}}{(ス)} \frac{2 - \sqrt{2}}{2}$

15 (ア) 2 (イ) 1 (ウ)  $a$  (エ) 3 (オ) 3 (カ) 2 (キ) 4  
(ク) 2  $\frac{(ケ)}{(コ)} \frac{1}{3}$   $\frac{(サ)}{(シ)} \frac{2}{3}$   $\frac{(ス)}{(セソ)} \frac{2}{27}$

16 (アイ) 48 (ウエ) 12 (オ) 2 (カ) 4 (キ) 4 (クケ) 12 (コサ) 16  
(シス) 26

17 (アイウ) 256 (エ) 6 (オ) 6 (カキ) 36 (クケコ) 567

18  $\frac{(ア)}{(イ)} \frac{1}{2}$  (ウ) 0





